

令和 8 年度 日本学校心理士会千葉支部 総会

日時 : 令和 8 年 9 月 13 日 (日) 11:00~11:45

会場 : 千葉市文化センター セミナー室

1 支部長挨拶

2 議長選出

3 報告

(1) 令和 7 年度活動報告

(2) 令和 7 年度収支決算報告

(3) 令和 7 年度会計監査報告

4 議事

(1) 令和 7 年度活動報告及び収支決算報告の承認について

(2) 令和 8 年度活動計画案の承認について

(3) 令和 8 年度予算案の承認について

(4) 令和 8 年度役員の承認について

(5) その他

5 議長解任

6 諸連絡

1 令和7年度 活動報告

(1) 令和7年度総会

令和7年9月7日(日) 千葉市文化センター 出席者43名

(2) 研修委員会

① 令和7年度 第1回研修会 B1ポイント 参加者77名

令和7年6月8日(日) 13:30~16:00 千葉市文化センター

講演 「外国にルーツをもつ児童生徒の現状と課題ー未来を共に生きる「市民」の育成を目指してー」

講師 敬愛大学教育学部 教授 土田雄一 氏

② 令和7年度 第2回研修会 B1ポイント 参加者91名

令和7年9月7日(日) 14:00~16:30 千葉市文化センター

講演 「子どもの社会性を育む予防的心理教育プログラムー対人関係ゲームを中心にー」

講師 城西国際大学福祉総合学部 准教授 高橋淳一郎 氏

③ 南関東ブロック研修会(令和7年度 第3回研修会) Aポイント 参加者79名

令和7年11月30日(日) 13:30~16:00 千葉市文化センター

講師 「学校メンタルヘルスの基礎・基本ー児童生徒対象のストレスマネジメント教育
及び教職員へのメンタルヘルス支援ー」

講師 兵庫教育大学名誉教授・神戸親和大学教育学部 特任教授 藤原忠雄 氏

④ 令和7年度 第4回研修会 B1ポイント 参加者81名

令和8年2月1日(日) 東京情報大学

・ 映画上映『「生きる」大川小学校 津波裁判を闘った人たち』

・ 講演 「災害時における学校の危機管理」

講師 千葉大学教育学部附属教員養成開発センター 特任教授 大野英彦氏

⑤ 令和7年度合同研究発表会(学校教育相談学会千葉県支部と共催) 参加者61名

令和8年2月1日(日) 東京情報大学

発表①『高校生の居場所としての「家」についてー実態調査の結果と考察ー』

発表②『合理的配慮と高校教育の今後について』

発表③『通信制高校における「ケアの循環」の意義と課題ー卒業生教職員を例としてー』

発表④『教育相談週間の実態と教師の実践』

発表⑤『学級生徒が不登校生徒に対して認識を深め、関わりを持てるように促す方法ー対話と書面对
話、ロールプレイ、振り返りシートを通してー』

発表⑥『新型コロナウイルス感染症対策の緩和による学校適応への改善状況と精神的健康との関連ー
過剰適応傾向の児童との比較による行動制限で抱えた学校不適応感の変容と課題ー』

発表⑦『教育相談センターにおける面接内での個々の言葉掛けの研究』ー親面接事例に対しての「共
感」と「アドバイス」ー』

(3) 編集委員会

学校教育臨床研究 第6号 令和7年6月発行

(4) 准学校心理士対応委員会

准学校心理士研修会（千葉支部 2025） B1 ポイント 参加者 13 名

令和 7 年 9 月 28 日（日） 13:30～16:30 千葉市美術館

対象 ① 准学校心理士 ② 准学校心理士以外の学校心理士資格取得を目指す方

内容 ① ケースレポートの書き方

講師 小柴孝子氏（やまびこ心理教育研究所所長・千葉大学子どものこころの発達教育センター客員研究員）

高橋淳一郎氏（城西国際大学 福祉総合学部准教授）

② 座談会認定審査の経験者を交えてのディスカッション

～受験に向けての準備や心構え、試験当日の様子など～

③ 質疑応答

(5) 海外交流委員会

韓国教育事情研修 募集定員に満たさなかったため企画延期

2 令和7年度決算報告

1. 収入の部

単位（：円）

項 目	予算額(a)	決算額(b)	差額増減(b-a)	摘 要
1. 前年度繰越金	419,049	419,049	0	
2. 支部費(本部より)	143,000	146,300	3,300	本部より還付 550円×266名
3. 千葉支部会員 会費	160,000	238,000	78,000	令和 6,7.8年度分
4. 研修会補助金(本部より)	50,000	46,589	-3,411	南関東ブロック研修会補助金
5. 研修会資料代	10,000	10,500	500	1,000円×10 500円×1
6. 研修会共催負担金	50,000	168,383	118,383	学校教育相談学会千葉県支部より
7. 雑収入	80	519	439	預金利子
合 計	832,129	1,029,340	197,211	

2. 支出の部

単位（：円）

項 目	予算額(c)	決算額(d)	差額増減(c-d)	摘 要	
1．事務局費	通信費	20,000	5,080	14,920	郵送・切手代
	事務局委託費	80,000	80,000	0	さくら教育研究所に委託
	事務局運営費	60,000	12,000	48,000	会計監査活動費他
	ZOOM契約代	23,375	23,375	0	
	AcrobatPro契約代	11,880	11,880	0	
	事務用品・消耗品費	60,000	34,901	25,099	インク、コピー用紙、封筒
2．研修委員会	講師料	200,000	232,678	-32,678	
	会場費	80,000	40,300	39,700	千葉市文化センター
	運営費	80,000	76,061	3,939	映画借用代・接待用茶菓
3．編集委員会	印刷代	110,000	117,472	-7,472	教育臨床研究第6号印刷
	郵送代	50,000	44,145	5,855	
	運営費	10,000	0	10,000	教育臨床研究第6号郵送
4．准学校心理士 対応委員会	講師料	45,000	40,000	5,000	
	会場費	5,000	4,680	320	千葉市美術館
	運営費	10,000	2,096	7,904	接待用茶菓
5．海外交流委員会	運営費	10,000	0	10,000	
6．旅費・交通費	100,000	9,900	90,100	事務局駐車料金	
7．雑費	5,000	110	4,890	硬貨手数料	
8．予備費	211,874	0	211,874		
合 計	1,172,129	734,678	437,451		

3. 決算の部

収入総計 1,029,340 円
 支出総計 734,678 円
 差引残高 294,662 円 （次年度へ繰り越し）

上記の通り報告いたします。

令和 8 年 7 月 11 日

会 計 安 塚 郁 子 印

監査の結果、適正であることを認めます。

令和 8 年 7 月 11 日

会計監査 吉 岡 秀 樹 印

会計監査 井 關 裕 子 印

※ 陰影を省略しておりますが、監査時にはすべての項目を確認済みです。

3 令和8年度活動計画（案）

(1) 令和8年度千葉支部総会

令和8年9月13日（日） 11:00～11:45 千葉市文化センター

(2) 研修委員会 ※いずれも日本学校教育相談学会千葉県支部と共催

① 令和8年度第1回研修会 B1 ポイント

・令和8年6月7日（日） 13:30～16:00 千葉市文化センター 会議室Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

・講演「『リアルナヒトコト』～子どもたちの本音を探る～」

講師 少年問題アナリスト・元千葉県警察上席少年補導専門員 上條理恵氏

② 令和8年度第2回研修会 B1 ポイント

・令和8年9月13日（日） 13:30～16:00 千葉市文化センター セミナー室

・内容 共に子どもを支える関係機関について知ろう」

(1) 子どもと親のサポートセンターの主な事業について

・教育相談事業および支援事業

・「ワンストップ・オンライン相談」デモ版視聴

・「放課後メタバースちば～こさぽんの家」ルームツアー

(2) 「不登校初期対応プログラム」事例集を使った演習

講師：子どもと親のサポートセンター所員（内貴功生・青木ゆかり・玉永峻・中村真里）

③ 令和8年度第3回研修会 B1 ポイント

・令和8年11月28日（土） 13:45～16:15 千葉市文化センター 会議室Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

・講演「子どもたちを取り巻く複雑化する課題への組織的対応とネットワーク型支援」

講師 千葉大学教育学部 教員養成開発センター 教授 荒金誠司氏

④ 南関東ブロック研修会（令和8年度第4回研修会） A ポイント

・令和9年1月31日（日） 午後 ※予定 東京情報大学 ※予定

・講演 テーマ未定

講師 東京情報大学総合情報学部 教授 原田恵理子氏

⑤ 令和8年度合同研究発表会（日本学校教育相談学会千葉県支部共催）

・令和9年1月31日（日） 午前 ※予定 東京情報大学 ※予定

⑥ 研究発表会実施規定について

(3) 編集委員会

① 学校教育臨床研究第7号発行（令和8年9月）

② 論文募集

(4) 准学校心理士対応委員会

① 加盟校の大学生向け出前講座

・令和8年4月18日（土） 13:00～14:30 東京情報大学

・対象 東京情報大学総合情報学部教職課程の学生 40名

・内容 「学校心理士について～准学校心理士取得のみなさまへ～」

・講師 学校心理士千葉支部 准学校心理士対応委員会委員長 内田 守

② 准学校心理士研修会（千葉支部2026） B1 ポイント

・令和8年9月27日（日） 13:45～16:30 千葉市美術館

・対象 40名 ①准学校心理士 ②准学校心理士以外の学校心理士資格取得を目指す方

・内容 ①ケースレポートの書き方（ゼミ形式） ②座談会 ③質疑応答

・講師 小柴孝子氏（やまびこ心理教育研究所所長・千葉大学子どものこころの発達教育センター客員研究員）

(5) 海外交流委員会

・韓国教育事情研修（ソウル、牙山） 2026年12月27日（日）～29日（火）

4 令和8年度予算（案）

1. 収入の部

単位（：円）

項 目	予算額	摘 要
1. 前年度繰越金	294,662	
2. 支部補助費（本部より）	197,400	(本部より550円×268名)+50,000円
3. 千葉支部会員 会費	160,000	2,000円×80名
4. 研修会補助金（本部より）	50,000	南関東ブロック研修会開催補助金
5. 研修会参加資料代	10,000	支部会員外の参加者10名
6. 研修会共催負担金	100,000	学校教育相談学会千葉県支部より
7. 雑収入	80	預金利子
合 計	812,142	

2. 支出の部

単位（：円）

項 目	予 算 額			摘 要
1．事務局費	253,880	通信費	20,000	郵送料・切手 他
		事務局委託費	80,000	さくら教育研究所に委託
		事務局運営費	30,000	
		AcrobatPro契約負担金費	11,880	学校教育相談学会千葉県支部と折半
		ZOOM契約代	12,000	学校教育相談学会千葉県支部と折半
		事務用品・消耗品費	100,000	印刷機・コピー用紙・インク 他
2．研修委員会	205,000	講師料	75,000	講師謝金・交通費 他
		会場費	100,000	総会・研修会・研究発表会
		運営費	30,000	
3．編集委員会	90,000	印刷代	30,000	教育臨床研究第7号印刷
		郵送代	50,000	教育臨床研究第7号郵送
		運営費	10,000	
4．准学校心理士 対応委員会	45,000	講師料	30,000	講師謝金・交通費
		会場費	5,000	
		運営費	10,000	
5．海外交流委員会	10,000	運営費	10,000	
6．旅費・交通費			20,000	
7．雑費			5,000	手数料 他
8．予備費			183,262	
合 計			812,142	

5 令和8年度役員（案）

※令和7・8年度の2年任期 ※50音順

顧問	三浦香苗	蘭千尋
----	------	-----

〔役員〕

役職	氏 名（所 属）	
支 部 長	田邊昭雄（東京情報大学）	
副支部長	青木ゆかり（千葉県子どもと親のサポートセンター） …編集委員会担当	
	荒井明子（秀明大学） …海外交流委員会担当	
	伊藤康弘（千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課） …研修委員会担当	
	塚本義雄（千葉県教育庁教育振興部児童生徒安全課） …准学校心理士対応委員会担当	
常任幹事	浅見光子（さくら教育研究所）	植草伸之（千葉市教育委員会）
	内田守（柏市教育委員会児童生徒課）	梅澤由紀子（市川市立国府台小学校）
	大木静子（八千代市立八千代台西中学校）	片桐力（さくら教育研究所）
	小柴孝子（やまびこ心理教育研究所）	菅原英一（学校法人柏芳学園柏の葉こども園）
	張愛子（小田原短期大学）	富樫春人（千葉県スクールカウンセラー）
	内貴功生（千葉県子どもと親のサポートセンター）	本間洋（成田市立吾妻小学校）
	安塚郁子（千葉市スクールカウンセラー）	
幹 事	足立直也（千葉県子どもと親のサポートセンター）	石井幸江（日本体育大学）
	石山博幸	今関真木子（千葉県スクールカウンセラー）
	大金文晶（県立君津特別支援学校）	加藤聡（県立仁戸名特別支援学校）
	門永由美（船橋市南本町子育て支援センター）	金高美津子（なんそう心理教育研究所）
	川口敏夫（銚子市立船木小学校）	川島康代（茂原市青少年指導センター）
	齊藤敦子（県立市川東高等学校）	進藤浩子（葛西児童発達支援センター）
	杉崎有衣（八千代市立西高津小学校）	高橋淳一郎（城西国際大学）
	武富教子（千葉市スクールカウンセラー）	玉永峻（千葉県子どもと親のサポートセンター）
	長野季子（白子町立白潟小学校）	原田恵理子（東京情報大学）
	藤田拓哉（県立検見川高等学校）	藤原和政（兵庫教育大学）
	益田亜矢子（市川市教育委員会）	松本明美（旭市立滝郷小学校）
	松本巖（秀明大学）	丸山陽子（千葉ファミリー相談室）
	南啓介（袖ヶ浦市教育委員会）	
会計監査	井關裕子（八千代市教育委員会）	吉岡秀樹（木更津市立畑沢中学校）

〔委員会組織〕

委員会	◎委員長○副	委 員	主な仕事
研修委員会	◎富樫春人 ○大木静子	足立直也 加藤聡 川口敏夫 齋藤敦子 南啓介 原田恵理子 本間洋	研修の企画・当日の運営など。
編集委員会	◎梅澤由紀子 ○松本巖	今関真木子 川島康代 進藤浩子 高橋淳一郎 藤田拓哉 松本巖	『学校教育臨床研究』の編集・発行。
准学校心理士 対応委員会	◎内田守 ○菅原英一	石山博幸 植草伸之 金高美津子 内貴功生 藤原和政	新たに学校心理士を受験する人への支援（ケースレポート作成や受験への対応）。
海外交流委員会	◎張愛子 ○石井幸江	門永由美 片桐力	海外（主に東アジア圏）のスクールカウンセリング事情の視察や関係機関との交流など。

〔事務局〕

事務局長	事務局員	主な仕事
浅見光子	大金文晶 小柴孝子 杉崎有衣 武富教子 玉永峻 長野季子 松本明美 益田亜矢子 丸山陽子 安塚郁子	支部の事務一切。 （会費管理、名簿管理、ホームページ運営、各種印刷、郵送他）

日本学校心理士会千葉支部会則

第1条 (名称)

本会とは「日本学校心理士会千葉支部」という。

第2条 (事務局)

本会の事務局は当分の間、さくら教育研究所(千葉市中央区新宿2-12-1-303)に置く。

第3条 (目的)

本会は学校心理士及び准学校心理士の交流、研修、広報、地位の向上を図る。

第4条 (事業)

本会は、前条の目的を達成するために、下記の事業を行う。

- ①専門職としての職見・技能を高めるための研修の実施
- ②会員相互の親睦と情報の交換・提供
- ③その他、本会の目的を達成するために必要な事業

第5条 (会員)

本会の会員は、千葉県内に在住または勤務する学校心理士で、日本学校心理士会千葉支部会費を納入した者、及び役員会で認められた者とする。

また、千葉県内に在住または勤務する准学校心理士を準会員とし、準会員においては会費の納入を免除する。

第6条 (役員)

本会に次の役員を置く。

- ①支部長 1名 ②副支部長 若干名 ③常任幹事 若干名
- ④幹事 若干名 ⑤会計監査 2名 ⑥事務局長 1名

第7条 (役員の任期)

全ての役員の任期は2年とし、再任は妨げない。

第8条 (役員の選出方法)

各役員の選出方法は次のようにする。

- ①幹事は、会員の互選により選出する。
- ②常任幹事・事務局長は、幹事の互選により選出する。
- ③支部長・副支部長は幹事会の推薦により、総会の承認を得る。
- ④会計監査は、支部長が幹事以外の人から推薦し、総会の承認を得る。

第9条 (総会、意見の集約)

- ①総会は、年1回以上開催し、必要な事項を審議、決定する。
- ②総会及び各種の決定については、出席者の承認により決定する。
- ③災害等の発生により総会が開催できない場合は、幹事会での審議、決定をこれに代える。

第10条 (役員会)

役員会は、常任幹事会並びに幹事会とする。それぞれ、支部長、副支部長を含んで構成し、次の役割を担う。

- ①常任幹事会は諸事業に必要な会務を行う。
- ②役員会の決定については、出席者の承認により決定する。
- ③本則に定めのない事項については、常任幹事会に委任する。
- ④第9条③の場合は、幹事会がこれを行なう。

第11条 (会計)

本会運営の経費は、本会則第5条により納入された会費、本部より還元されたもの、及びその他をもって充当する。詳細は別途定める。

第12条 (会則変更)

この会則の変更は、役員会の決定と総会の承認によって行うことができる。

付則

- 1. この会則は平成11年4月1日より施行する。
- 2. 平成28年3月14日改正
- 3. 令和3年9月5日改正
- 4. 令和4年9月11日改正

別記

- (1) 平成13年8月25日に年会費について修正。
 - ①年2,000円から1,000円に減額
 - ②年度途中で学校心理士の資格を得たものの会費は、その年度からとする。ただし、3月の場合は、翌年度からとする。
- (2) 平成22年3月25日に年会費について修正。
 - ①年1,000円から500円に減額
 - ②年度途中で学校心理士の資格を得たものの会費は、その年度からとする。ただし、3月の場合は、翌年度からとする。
- (3) 令和3年9月5日に年会費について修正
 - ①年500円から1,000円に増額
 - ②年会費は2年ごとに納入。奇数年度に銀行振り込みにより2,000円を納入する。
 - ③途中入会の場合は、翌年会費から納入する。途中退会の場合は返金をしない。

日本学校心理士会千葉支部 研究発表会実施規程（案）

1 本規程の目的

本規程は、日本学校心理士会千葉支部（以下、「本支部」という）の研究発表会において、会員が研究発表を適正に行い、正式な発表として認定されるための条件および規則を定める。

2 発表資格と申込

- （１）発表申込者（筆頭発表者）は、原則として発表申込時および発表時点において、本支部の会員でなければならない（申込時点での入会手続き中を含む）。
- （２）発表者は、発表申込に関わるすべての手続きを所定の期日までに行わなければならない。
- （３）共同研究において、実際に登壇して口頭発表を行う者は、原則として本支部の会員に限る。非会員は「共同研究者として名前を連ねる」ことはできるが、会員資格を持たないまま登壇することはできない。
- （４）非会員は、発表時点までに本支部会員となることで、登壇することができる。
- （５）上記の条件が満たされない場合は、発表申込を受理しない。また、受理後であってもこれを取り消すことがある。

3 准学校心理士養成機関に対する特例

- （１）若手研究者の育成および学校心理士資格の取得促進を目的として、准学校心理士養成機関（以下「加盟校」という）に対し、次の特例措置を講ずる。
- （２）加盟校に在籍する学生（大学院生を含む）であって、指導教員（本会員）との共同発表であれば、第２条第１項および第３項の規定にかかわらず、非会員の学生が筆頭発表者として申し込むこと、および口頭発表に登壇することを認める。

4 発表研究の条件

- （１）発表研究は、発表時において未発表のものに限る。すでに印刷・発行・Web 公開された研究（単行本、学会誌、紀要、商業誌、インターネット上の公開資料等）や、他の学会等で発表済みの研究は、発表することができない。ただし、千葉県長期研修生の発表研究はこの限りではない。
- （２）発表研究は、「学校心理士倫理綱領」および「日本学校心理士会大会発表倫理規定」を遵守したものでなければならない。発表内容に関する倫理的配慮については、発表者が一切の責任を負う。

5 発表に関する制約

- （１）発表は、１発表会につき、筆頭発表者として１人１発表に限る。連名発表者となる場合を含め、１人の発表者が関与できるのは合計３発表までとする。
- （２）多くの会員に発表の機会を保障するため、同一テーマ（実質的に同一内容とみなされるものを含む）での発表は連続２年までとする。

6 発表の成立条件

- （１）発表は、以下の条件をすべて満たすことで、正式な発表として認定される。
 - ① 指定された形式での「口頭発表」の実施
 - ② 研究協議への参加

③ 支部研究誌『学校教育臨床研究』編集委員会への「研究発表論文（報告）」が後日、所定の期日までに提出および受理されること。（第 3 条の特例による発表は、指導教員（本会員）名を必ず明記すること）

（2）発表者は、原則として割り当てられた時間の終了まで退席してはならない。

（3）発表者がやむを得ない理由（急病、災害、交通トラブル等）で発表困難となった場合、事前に支部長または研修委員長の承認を得ることで、連名発表者が代行できる。ただし、代行者は本支部の会員に限る。なお、第 3 条に定める特例の対象学生については、非会員であっても代行を認める。

7 参加料

本会における研究発表の参加料および聴講料は無料とする。

8 運営体制

（1）各発表の円滑な進行および議論の深化を図るため、主催者側が各発表に座長およびコメンテーターを配置する。

（2）座長は発表の進行管理を行い、コメンテーターは発表内容に対する専門的見地からの質疑や助言を行う。

（3）発表者は、座長およびコメンテーターの指示に従い、円滑な運営に協力しなければならない。

9 発表時間の配分

（1）1 発表あたりの持ち時間は原則として 35 分とする。

（2）時間の内訳は以下を基本とする。

・発表：20 分 ・研究協議：15 分（質疑応答：10 分、コメンテーターによるコメント：5 分）

（3）発表および発言の経過時間は、事務局が以下の通り合図する。

・第 1 鈴：15 分経過（発表残り 5 分） ・第 2 鈴：20 分経過（発表終了）

（4）座長は、発表全体の進行を鑑み、必要に応じて質疑応答時間を調整することができる。

（5）発表本数や会場の都合、当日の進行状況により、主催者の判断で持ち時間および内訳を変更することがある。

10 発表資料の配布および管理

（1）発表資料（レジュメ等）がある場合は、発表者は主催者が事前に指定した部数を各自で印刷し、当日持参するものとする。なお、会場での印刷および複写（コピー）の対応は原則として行わない。

（2）配布資料の管理（残部回収等）は発表者が責任を持って行うものとする。特に秘密保持や著作権等の観点から回収が必要な資料については、発表者が確実に全数を回収しなければならない。

（3）個別の事例報告など秘匿性の高い内容を含む資料については、資料としての配布を避け、スクリーンへの投影や口頭発表に限定することを強く推奨する。

11 発表機材および準備

（1）発表に使用するノートパソコンは原則として各自が持参する。接続端子（HDMI 等）を確認し、

必要に応じて変換アダプター等は各自で用意すること。

- (2) 発表開始前の休憩時間等を利用し、必ず各自で接続確認および動作チェックを行うこと。
- (3) 万が一の故障に備え、発表用データを USB メモリ等に保存して持参することを推奨する。

12 遅刻および欠席

- (1) 発表者が自身の発表開始時刻までに会場に現れない場合、原則として発表を辞退したものとみなす。
- (2) 遅刻等により持ち時間が短縮された場合でも、終了時刻の延長は行わない。
- (3) 欠席や遅刻の発生、機材トラブル、その他やむを得ない事情がある場合、主催者の判断で発表順序を繰り上げ、または変更することがある。発表者はこれに異議を唱えないものとする。

13 研究発表の取り消し

発表終了後であっても、本規程に反する事実が確認された場合は、支部常任幹事会の議を経て発表を取り消すことができる。

14 改廃

本規程の改廃は、支部常任幹事会の決議により行う。

附則

本規程は、2026 年 9 月 13 日から施行する。

『学校教育臨床研究』投稿規定

(原稿について)

1. 原稿はA4縦置き・横書き, 1枚を40字×40行×10枚程度とし, 字体はMS明朝, フォントは10.5ポイントとする。また, 算用数字は半角とする。
2. 原稿は, 表題, 副題(なくても良い), 所属名と氏名の順に記載し, 1行あけて書き始める。
3. 投稿論文は, 学校教育臨床に関する実践論文, 実践報告, 資料とし, 上限10枚以内(注記, 引用文献, 参考文献, 図表を含む)におさめる。ただし, 編集委員会において認める場合はこの限りではない。
4. 論文の文体は「である」調とし, 常用漢字, 現代かなづかいを用いる。
5. 注記, 参考文献, 引用文献は全体で8件以上(実践報告は3件以上で良い)とし, 一括して「文献」として本文の後ろにまとめて掲載し, 文献の著者名のアルファベット順に並列する。文献の年号は初版の刊行年(西暦)とする。表記は以下の例示による。
 - ・単著本の場合 千葉太郎「本タイトル」〇〇出版 2016 pp. 95-96
 - ・論文の場合 千葉次郎「論文タイトル」『研究誌タイトル』No.24 2015 pp. 95-96
6. 投稿者は投稿論文で紹介する事例における関係者のプライバシーの保護に十分配慮し, 投稿の同意を得たことが分かるように明記する。

(投稿について)

1. 筆頭著者は日本学校心理士会千葉支部会員もしくは日本学校教育相談学会千葉県支部会員であること。
2. 連続投稿は2年までとする。
3. 投稿論文は編集委員会が審査し, 掲載を決定し, 投稿者に連絡をする。
4. 投稿論文は本学会の学会誌, 他学会の学会誌への掲載論文は不可とする。
5. 投稿論文は「連絡票」「抄録」「本文」の順に並べ, 各頁に通し番号を入れたもの1部を送付する。また, これらを保存した記憶媒体(CD/USB等)を送付する。※投稿一式の返却はしないものとする。
 - ・「連絡票」は所定の枚数とは別に論文タイトル, 執筆者氏名, 支部会員番号, 所属機関と職名, 連絡先住所, 電話番号とメールアドレスを1枚にまとめる。
 - ・「論文抄録」は所定の枚数とは別に日本語による400字程度を1枚にまとめる。
6. 表記の統一・整理及び校正は, 特に申し出のない限り編集委員会において行う。
7. 投稿の締切は毎年12月24日(必着)。発行は翌年9月の予定。
8. 投稿についての送付先は編集委員会とする。
送付の際に表に「学校教育臨床研究 投稿原稿在中」と朱書きすること。

(送付先)

〒276-0003 千葉県八千代市大学町1-1
秀明大学 学校教師学部 松本 巖

※掲載された方には3冊配付します。それ以上希望される方には1冊500円(送料別)で配付します。事務局までご連絡ください。